

平成25年度病虫害発生予察予報第9号(12月)

平成25年12月3日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	うどんこ病	並
	べと病	並
	つる枯病	少
	黄化えそ病	並
	褐斑病	並
	ミナミキイロアザミウマ	並
	タバココナジラミ	並
促成ナス	灰色かび病	並
	すすかび病	<u>やや多</u>
	黒枯病	<u>やや多</u>
	うどんこ病	<u>やや多</u>
	アブラムシ類	並
	ハスモンヨトウ	少
	ミナミキイロアザミウマ	やや少
	ヒラズハナアザミウマ	やや少
	タバココナジラミ	<u>やや多</u>
	ハモグリバエ類	少
	ハダニ類	少
	ホコリダニ類	少
促成ピーマン・シシトウ	モザイク病	<u>やや多</u>
	うどんこ病	<u>やや多</u>
	黒枯病	<u>やや多</u>
	斑点病	<u>やや多</u>
	アブラムシ類	<u>やや多</u>
	ミナミキイロアザミウマ	並
	ヒラズハナアザミウマ	並
	タバココナジラミ	並
	ハダニ類	並
	ホコリダニ類	少
促成トマト	トマト黄化葉巻病(TYLCV)	<u>やや多</u>
	うどんこ病	少
	葉かび病	少
	すすかび病	少
	タバココナジラミ	並

I 気象予報(高松地方気象台 平成25年11月29日発表)

＜予想される向こう1ヶ月の天候＞ 11月30日から12月29日

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1ヶ月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40％です。降水量は、平年並または少ない確率ともに40％です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40％です。

週別の気温は、1週目は、平年並の確率50％です。2週目は、低い確率50％です。

＜確率＞

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多 い)
1ヶ月	気 温	四国地方	40		20
	降 水 量		40		20
	日照時間		20	40	
1週目	気 温	四国地方	20	50	
2週目			50		30
3～4週目			40	30	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月 :11月30日(土)～ 12月29日(日)

1週目 :11月30日(土)～ 12月 6日(金)

2週目 :12月 7日(土)～ 12月13日(金)

3～4週目:12月14日(土)～ 12月27日(金)

II 病虫害発生予想

1. 抑制・促成キュウリの病虫害

1) 黄化えそ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

(1) 11月下旬の巡回調査では本病害は平年並で、媒介虫であるミナミキイロアザミウマの発生も平年並であることから、今後も大きな増加はないと思われます。しかし、媒介虫の薬剤感受性低下も報告されており、既発ほ場では増加および新たな感染が懸念される。

(2) 向こう1か月の気象予報から急激に増加する要素は少ない。

対 策

(1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第早めに除去する。

(2) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除については、当該害虫の項を参照。

2) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

(1) 現在、発生は平年値に比べて、中央部がやや少、中西部～西部では多～やや多発生である。しかし、栽培面積に対しては極少発生である

(2) 向こう1か月の気象予報から温度の低い状態が予想され、ハウス外からの飛びこみは少ないと思われるが、薬剤の感受性低下も報告されており、既発ほ場での増加および新たな感染が懸

念される。

対 策

- (1) 本虫は生長点部等見つけにくく薬剤もかかりにくい場所を好み、油断するとすぐに密度が上昇するので、初期発見及び丁寧な薬剤の散布など防除の徹底を心がけるとともに、感受性低下を防ぐため同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。

3) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、県全域で平年並～多発生で、いずれも寄生密度は高くない。
- (2) 向こう1か月の気象予報と現状の発生状況から急激な密度増加はない見込みで平年並で推移すると思われる。

対 策

- (1) 本虫は密度が上昇しやすいので、初期発見及び薬剤の丁寧な散布など防除の徹底を心がけるとともに、感受性低下を防ぐため同一薬剤及び同系統の薬剤の連用は避ける。
- (2) 本虫が媒介する退緑黄化病の発生がメロンで確認されており、キュウリへの感染も危惧されることから、発生に留意し、異常な株が発見された場合は早めに除去し適正に処分する。

2. 促成ナスの病害虫

1) 黒枯病

予 想 発生時期:やや早 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県全域で発生程度は高くないものの、発生面積はやや多～多発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では温度が低い状態が続くと予想されおり、発生を助長する気象条件ではないと考えられるが、既発ほ場の状態から平年よりやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 蔓延すると防除が困難になるので初期から防除を行う。その場合は薬剤の感受性低下を防ぐため同じ薬剤の連用は避ける。
- (2) 急激な温湿度変化や草勢低下は病勢を助長するので、適正な温湿度管理と肥培管理に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (3) 現在、県東部～中央部で発生程度は高くないものの、平年より発生はやや多い。
- (4) 向こう1か月の気象予報では温度が低い状態が続くと予想されており、加温機の連続運転で施設内は乾燥状態になり、発生を助長すると考えられ、平年よりやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (3) 蔓延すると防除が困難になるので初期から防除を行う。薬剤の感受性低下も懸念されており同じ系統・薬剤の連用は避ける。
- (4) 急激な温湿度変化や草勢低下は病勢を助長するので、適正な温湿度管理と肥培管理に努める。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや少
根 拠

- (1) 現在、県全域で発生は、少発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報から、野外からの飛びこみは少なくなり、ハウス内での増殖が抑制されると考えられ、急激な密度増加はないと予想される。

対 策

- (1) 高密度になると防除が困難になるので既発ほ場では、薬剤の感受性低下を防ぐため同じ薬剤の連用は避け、感受性低下の恐れのない気門封鎖型の薬剤なども組み入れながら防除する。
- (2) 天敵導入ほ場では、天敵の増殖初期にはできるだけ薬剤散布を控えるが、天敵と対象本虫の密度推移に注意しながら、本虫の密度が高い場合には天敵に影響のない薬剤で防除する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県全域で発生面積が多く、寄生株率もやや高い。
- (2) 向こう1ヶ月の気象予報から、ハウス外からの飛びこみは少ないが、現状の発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 高密度になると防除が困難になるので既発ほ場では、薬剤の感受性低下を防ぐため同じ薬剤の連用は避け、感受性低下の恐れのない気門封鎖型の薬剤なども組み入れながら防除する。
- (2) 天敵導入ほ場では薬剤の選定に留意し、微生物製剤のように天敵に影響の少ない薬剤や粘着資材など物理的な防除方法も活用する。

3. 促成ピーマンの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県東部～中央部にかけて発生面積はやや多で、程度もやや高い。
- (2) 向こう1か月予報の気象予報から減少する要素は少ないが、効果的な防除方法もあることから病勢の大きな進展はないと思われる。しかし、天敵防除の普及で、予防散布が十分にできていないところも多く、今後の発生もやや多い状態で続くと考えられる。

対 策

- (1) 本病が蔓延すると防除が困難になるので、薬剤散布の際は下葉や葉裏へかけ残しのないよう丁寧に行う。

2) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県中央部で平年に比べて、発生面積が多くなっている。
- (2) 向こう1か月の気象予報から急激な病徴の進展はないと考えられるが、天敵防除の普及で予防散布が十分にできていないところも多く、既発ほ場では発生が継続すると考えられる。

対 策

- (1) 本病が蔓延すると防除が困難になるので予防防除に努め、薬剤散布の際は下葉や葉裏へかけ残しのないよう丁寧に行う。
- (2) 天敵を利用した栽培では、薬剤散布が天敵に影響を及ぼす場合があるので注意し、罹病葉等

の除去や送風等によるハウス内湿度の低減等環境改善にも努める。

3) アブラムシ類

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県中央部で発生面積、密度が高い。種類はワタアブラムシが主体である。
- (2) 向こう1か月予報からハウス外からの飛びこみ量は減少すると見込まれるが、現在の発生状況から今後もやや多い状態で推移すると思われる。

対 策

- (1) 油断すると急激に増加し防除が困難になるので、初期の低密度時から防除を行う。なお天敵を導入している場合はそれらに影響の少ない薬剤を選定する。
- (2) 本虫はCMVなどのモザイク病を媒介するため発生に留意し、異常な株が発見された場合は早めに除去し適正に処分する。

1. 促成トマトの病害虫

- 1) トマト黄化葉巻病(TYLCV)
- 2) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:黄化葉巻病;やや多、タバココナジラミ;並
根 拠

- (1) 現在、黄化葉巻病はやや多、媒介虫であるタバココナジラミの発生は平年並である。
- (2) 向こう1か月予報では気温は低いことが予想されることから、媒介虫も増加する要素は少なく、いずれも現在の発生のままで推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第除去し適正に処理する。
- (2) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。薬剤散布に当たっては感受性低下を生じないように同一薬剤の連用は避け、気門封鎖等感受性低下の恐れのない薬剤も使用する。
- (3) 粘着資材の設置など物理的な方法も活用し、侵入及び密度の低減に努める。

県民の皆様に提供する農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

2. こうち農業ネットサービス※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

- <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info/list.php?DID=319>(Iモード)(Iモード)
 - トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ezweb)
 - 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)
- ①病害虫発生予察情報（概要）